

クリニカルパス通信

パスのメリットは？

病院・医療従事者のメリットは、医療が標準化される、チーム医療が推進される、教育ツールとして仕様できる、病院経営も改善されるなどが言われています。患者・家族にとっては入院中の経過や治療内容がわかりやすく安心感して入院生活を送ることができることなどがあります。

新パス紹介 (2020年10月～12月承認分)

以下のパスの監査が終了しています

(使用できるようになったパス)

<外科>

ストマ増設（悪性）

内視鏡的食道静脈瘤治療（前日入院）

<整形外科>

左・右大腿骨遠位端骨折

腰部脊柱管狭窄症保存

外傷保存療法

<眼科>

白内障手術（4泊5日）

白内障手術（当日入院2泊3日）

硝子体手術（4日前入院）

硝子体白内障手術（4日前入院）



パス委員会 パス通信班

11月12日に令和2年度第1回ミニパス大会を開催しました。

1. 今さら聞けないパス用語

演者：外科 木戸川 秀生

クリニカルインディケター、バリエーションなどクリニカルパスを使用する上では当たり前で使用されている用語について再度、説明していただきました。

2. クリニカルパスの観察項目について

演者：7B病棟 宗 育子

クリニカルパス観察項目の必要性、どのような視点で検討するかなどについて説明いただきました。

(クリニカルパス委員会 パス通信班 岩永 妙)

【2020年10月～2020年1月パス適用率】

